株式会社LIXIL

銘柄コード	5938
法人番号	5010601004914

＊は選択開示項目

日本標準産業分類	コード	項目名
中分類	24	金属製品製造業
細分類（主たる事業）	2400	主として管理事務を行う本社等
エネルギー管理統括者	【役職】　常務役員 CEIO 【氏名】　迎 宇宙	

エネルギー総使用量	2,895,979 (3,097,602)	GJ	74,716 (79,918)	kℓ
前年度エネルギー総使用量			83,485	kℓ
非化石エネルギー総使用量＊	735,253	GJ	18,970	kℓ
調整後温室効果ガス排出量	123,932	$t\text{-}CO_2$		

【エネルギーの使用の合理化】

主たる事業におけるエネルギー消費原単位※注（2023年度実績）	0.5851 (0.6447)	原単位分母【売上高(億円)】			
	主たる事業の構成割合	7.8 (8.0)			%
事業者全体のエネルギー消費原単位対前年度比	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		101	102.2	97.4	101
事業者全体の5年度間平均原単位変化（%）	100.4				

※ 主たる事業は、必ずしもエネルギー消費量の多寡で決定されるものではなく、日本標準産業分類の考え方に基づき各事業者が決定したもの。

【調整後温室効果ガス排出量の算定に用いた認証排出削減量等の量】

種別＊	合計量＊	
非化石電源二酸化炭素削減相当量	21,687	$t\text{-}CO_2$
-	-	$t\text{-}CO_2$
-	-	$t\text{-}CO_2$
-	-	$t\text{-}CO_2$

【電気の需要の最適化】

主たる事業における電気需要最適化評価原単位（2023年度実績）＊	0.6111 (0.7199)	原単位分母【売上高(億円)】			
DR実施日数＊	非開示				
事業者全体の電気需要最適化評価原単位対前年度比＊	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		101.2	102.1	97.3	101
事業者全体の5年度間平均原単位変化＊	100.4				

【非化石エネルギーへの転換】

電気の非化石比率	事業者全体で使用する電気				
目標（2030年度）	70.0%				
直近５年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					62.3%
目安設定業種	-		-		
目安（2030年度）	-				
	-				
目標（2030年度）	-				
直近５年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					-
目安設定業種	-		-		
目安（2030年度）	-				
	-				
目標（2030年度）	-				
直近５年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					-

【ベンチマーク指標の状況（合理化）】

ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	

【取組の概要：業界の事情等を考慮した取組について（定性的事項）】

（自由記述欄）

１．エネルギーの使用の合理化に関する事項

省エネタイプの空調設備への更新や遮熱塗装による空調電力削減、省エネ設備の導入促進などを全国の工場で進めています。また、ショールームや営業所等でも、高効率証明ランプへの更新、デマンド監視による空調抑制を実施しています。
過去５年度間のエネルギー消費原単位悪化の主要因は、新型コロナウイルスの影響により工場の稼働率が不安定になり、エネルギー使用効率が低下したことと考えています。

２．非化石エネルギーへの転換に関する事項

事業で使用する電力の100%再生可能エネルギー化を目指す企業イニシアティブ「RE100」に加盟しています。生産工場では再エネ電力証書の購入だけでなく、新たな再生可能エネルギー設備に対する投資を促す効果がある「追加性」を考慮し、PPAモデルによる太陽光発電設備を導入しています。熊山工場（岡山県)では自家消費型太陽光発電および既存の自社メガソーラーの非化石価値などを組み合わせることで、100%再生可能エネルギーによる電力での生産体制を実現しました。

必読：本開示シートを閲覧するにあたっては「省エネ法定期報告情報の開示制度手引き」を参照お願いします

【参考情報】

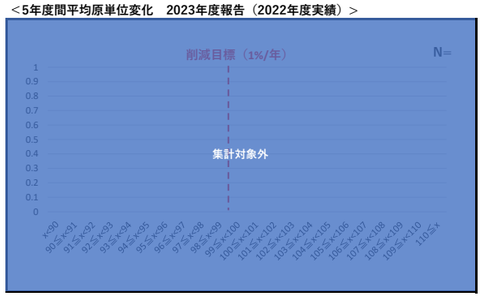
＜業界の特色＞

金属製品製造業では、ブリキ缶及びその他のめっき板等製品、刃物、手道具類、一般金物類、電熱器を除く加熱装置、建設用・建築用金属製品、金属線製品及び他に分類されない各種の金属製品等のような鉄及び非鉄金属製品を製造します。
金属製品製造業では、2022年度において国内の産業の1.9%のCO2を排出しています。省エネルギーとCO2排出量の削減のためにボイラーや熱処理設備の更新、高効率照明の導入、動力のインバータ化、台数制御、変圧器の高効率化、電力監視システムの導入等に取り組んでいます。特に空調の高効率化や高効率照明の導入を中心にして省エネルギーとCO2排出量の削減に取り組んでいます。また、洋上風力発電用の集電・送電ケーブル等、金属製品の普及によって、再生可能エネルギー電源比率向上に貢献しています。

＜定期報告書データに基づく業界毎の集計値＞　注：エネルギー使用量のシェアが全体の0.03%以上で、事業者数が 10 件以上の業種細分類について集計

2400　主として管理事務を行う本社等		2023年度報告（2022年度実績）		
		平均値	中央値	最大値
エネルギー総使用量	kl		集計対象外	
非化石エネルギー総使用量	kl			
調整後温室効果ガス排出量	$t\text{-}CO_2$		集計対象外	
DR実施日数	回			

＜5年度間平均原単位変化　2023年度報告（2022年度実績）＞



【取組の概要：カーボンニュートラルに向けて】

（自由記述欄）

１．自由記述欄 （カーボンニュートラルの実現等に資する事業者独自の取組や革新的技術に係る研究開発等の取組について）

2020年3月期に策定した「LIXIL環境ビジョン2050」では、「Zero Carbon and Circular Living（CO2ゼロと循環型の暮らし）」を掲げ、その実現に向けて策定した「気候変動対策を通じた緩和と適応」「水の持続可能性を追求」「資源の循環利用を促進」の三つの重点領域に取り組んでいます。「気候変動対策を通じた緩和と適応」についての事業プロセスの取り組みとして、LIXILは、2031年3月期までにScope1,2のCO2排出量を2019年3月期比で50.4%削減する目標を設定しました。工場やオフィスでの徹底した省エネ活動や、再生可能エネルギーの利用、 CO2排出の少ない燃料への転換や電気への転換（電化）などを通じ、事業活動による環境負荷の最小化とCO2排出削減に取り組んでいます。
■事業プロセスにおける取組
LIXILは代替燃料やエネルギー効率の高い製造法を実現する為、水素への燃料転換やCO2を分離・回収し有効活用するCCUなどの新技術を取り入れるなど、研究段階にある新技術の応用も視野に、2030年以降の実用化を目指した検討を開始しています。燃料として供給インフラの整備に課題が残る水素ですが、2024年3月期に、高温域のアルミ溶解工程・セラミック焼成工程がある全製品で、試験炉での水素燃料への転換実験を行い成果を上げています。アルミ形材を製造する小矢部工場では、形材を着色する表面処理工程で発生した水素を回収する検証試験を実施し、90%以上の効率で回収することに成功しました。
また、令和5年度補正省エネ補助金「省エネルギー投資促進支援事業費補助金」を活用し、高効率空調や高性能ボイラの導入により、生産工程においても省エネルギーを実現しています。
■インパクト拡大に向けた取り組み
LIXILでは、2026年3月期までに新築戸建住宅向け高性能窓、2031年3月期までに節湯水栓や節水型トイレの販売構成比率を100%とする目標を掲げています。自動センサーによって吐水・止水を行うタッチレス機能と湯水の使い分けができるエコセンサー機能を持つ水栓製品により、省エネ・節水を実現しています。お湯を無意識に使うことがなくなる為、従来品と比較して、約37%の省エネ、約30%の節水が期待できます。
また、2031年3月期までに、LIXILハウジング事業で使用されるアルミ形材におけるリサイクルアルミの使用比率を100%にする目標を掲げています。長年にわたり、アルミ資材を再利用する技術開発に取り組んできた当社は、業界トップクラスのリサイクル率を実現しています。2022年12月より原材料の70%にアルミリサイクル材を使用した「PremiAL R70」を、2023年10月より新地金を全く使用しないリサイクルアルミ100%のアルミ形材「PremiAL R100」を展開しました。「PremiAL R100」では新しい地金を使用した製品に比べて原材料調達・輸送・生産までのCO2量の約75%の削減に貢献しており、第三者認証「エコリーフ環境ラベル」を取得しています。
■国内外のイニシアティブへの参加
・TCFD（2019年3月に賛同を表明）・RE100（2019年10月より参加）・SBTi（初回認定：2017年11月、更新認定：2023年3月（1.5°C水準））・日本気候リーダーズ・パートナーシップ（JCLP）（2014年9月より参加）・気候変動イニシアティブ（Japan Climate Initiative）（2018年7月より参加。2023年4月、再生可能エネルギーの導入加速と実効性の高いカーボンプライシングの早期導入を政府に求めるメッセージに賛同表明）・GXリーグ（2022年3月より参加。あわせて、「GX経営促進WG」に参加）・SBTネットゼロ認定を取得（2024年3月、国内建材業界では初）
■環境活動に関する情報開示
CDP気候変動の分野で初の最高評価となる「Aリスト企業」に選定された他、水資源管理に関する「CDP水セキュリティ2023」ではBの評価を獲得しました。

２．関連リンク

LIXILの環境戦略	:	https://www.lixil.com/jp/impact/environment/environment_detail.html
気候変動の緩和と適応	:	https://www.lixil.com/jp/impact/environment/ghg.html
資源循環事例紹介:アルミ	:	https://www.lixil.com/jp/impact/environment/sustainable.html